



「新技術活用計画書・実施報告書」
「活用効果調査表」のチェックリスト活用例

（平成28年 8月22日現在）

新技術活用効果調査表チェックリスト：活用例 その1

空欄はありませんか？

新技術活用計画書チェックリスト

【発注者】・【施工者】共通
(発注担当課)

チェックリスト


- ①未記入箇所や未チェック箇所がないか。【青太枠内を記入】
(ただし、黒太枠内の欄については記載の必要はありません)
- ②比較する従来技術は、NETIS掲載情報の「比較する従来技術」となっているか。
- ③活用等の型は、正しい箇所にチェックされているか。

チェック欄

※計画書作成者をお願い

新技術活用効果調査表を作成し、保存する場合は、ファイル名は「工事名【新技術名】」としてください。

※ファイル名の例

ファイル名：  ○○○○○工事【新技術名】.xls

活用効果調査表は、九州技術事務所のホームページから入手してください。

新技術活用計画書・実施報告書

計画書作成段階は青枠内を記載してください。(黒枠内(「施工概要」～「作業環境」)は実施報告書記載時。)
調査表は1技術につき1枚作成してください(発注者と施工者が同一様式に記入してください)。
同一工事内で複数の技術を活用した場合、技術毎に作成してください。
複数の工事でも同じ技術を活用した場合、工事毎、技術毎に調査表を作成してください。
この調査表の作成は、NETISに掲載している新技術情報と一致する必要があります。

新技術名称	○○○○○工法			NETIS番号	AA-00000-V
比較する従来技術	軟弱地盤処理工(スラリー攪拌工単軸)				
整備局名	九州地方整備局	事務所名	○○事務所	受注者名	○○株式会社
工事名	○○地区改良工事		契約額(円)	○○,○○○,○○○	
活用等の型	<input type="checkbox"/> 試行申請型(発注者指定)	<input type="checkbox"/> 試行申請型(契約後指定)	<input type="checkbox"/> 発注者指定型		
	<input type="checkbox"/> 施工者希望型(契約前指定)	<input type="checkbox"/> 施工者希望型(契約後指定)	<input type="checkbox"/> フォールド提供型		
工事期間	自	2015年	4月	1日	
	至	2016年	3月	20日	
施工場所	○○県○○市○○町○○地先				←(要記入)

施工概要	内容			
	対象数量			
	新技術使用箇所			
現場施工条件	現場条件	周辺状況(病院、学校、騒音の有無等)	自然環境(騒音、振動、水質等)	
施工上で重大な障害や問題が発生したか	<input type="checkbox"/> 無	障害の内容		
作業環境	<input type="checkbox"/> 陸上作業	<input type="checkbox"/> 水上作業	<input type="checkbox"/> 地下作業	<input type="checkbox"/> 水中作業

活用理由の該当項目にチェック	コメント
<input checked="" type="checkbox"/> 経済性	他の工法と比較して経済的である。
<input checked="" type="checkbox"/> 工期	工期を短縮する必要がある。
<input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形	杭間隔の誤差を少なくすることができる技術である。
<input type="checkbox"/> 安全性	
<input type="checkbox"/> 施工性	
<input type="checkbox"/> 環境	周辺環境(住宅地への騒音)に配慮する必要がある。
<input type="checkbox"/> その他(自由設定)	
<input type="checkbox"/> その他(自由設定)	

新技術活用効果調査表チェックリスト：活用例 その2

新技術活用計画書チェックリスト

【発注者】・【施工者】共通
(発注担当課)

チェックリスト

- ①未記入箇所や未チェック箇所がないか。【青太枠内を記入】
(ただし、黒太枠内の欄については記載の必要はありません)
- ②比較する従来技術は、NETIS掲載情報の「比較する従来技術」となっているか。
- ③活用等の型は、正しい箇所にチェックされているか。

チェック欄

※計画書作成者をお願い

新技術活用効果調査表を作成し、保存する場合は、ファイル名は「工事名【新技術名】」としてください。

※ファイル名の例

ファイル名：○○○○○工事【新技術名】.xls

活用効果調査表は、九州技術事務所のホームページから入手してください。

「比較する従来技術」は、
同じ内容になっていますか？

新技術活用計画書・実施報告書

計画書作成段階は青枠内を記載してください。(黒枠内(「施工概要」～「作業環境」)は実施報告書記載時。)
調査表は1技術につき1枚作成してください(発注者と施工者が同一様式に記入してください)。
同一工事内で複数の技術を活用した場合、技術毎に作成してください。
複数の工事で同じ技術を活用した場合、工事毎、技術毎に調査表を作成してください。
「比較する従来技術」は、NETIS申請情報に記載されている従来技術としてください。

新技術名称	○○○○○工法			NETIS番号	AA-00000-Y
比較する従来技術	軟弱地盤処理工(スラリー攪拌工単軸)				
整備局名	九州地方整備局	事務所名	〇〇事務所	受注者名	〇〇株式会社
工事名	〇〇地区改良工事		契約額(円)	〇〇,〇〇〇,〇〇〇	
活用等の型	<input type="checkbox"/> 試行申請型(発注者指定) <input type="checkbox"/> 試行申請型(契約後提案) <input type="checkbox"/> 発注者指定型 <input type="checkbox"/> 施工者希望型(契約前提案) <input type="checkbox"/> 施工者希望型(契約後提案) <input type="checkbox"/> フィールド提供型				
工事期間	自 2015年 4月 1日	至 2015年 6月 1日	新技術施工期間	自 2015年 6月 1日	至 2015年 8月 10日
施工場所	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇地先 ← (要記入)				
内容					
対象数量					
新技術使用箇所					
現場施工条件	現場条件	周辺状況(病院、学校、緑地の有無等)	自然環境(騒音、振動、水質等)		
施工上で重大な障害や問題が 生じたか					
活用理由の該当 項目にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 経済性 <input checked="" type="checkbox"/> 工程 <input type="checkbox"/> 品質・出来形 <input type="checkbox"/> 安全性 <input type="checkbox"/> 施工性 <input type="checkbox"/> 環境				

NETIS 新技術情報提供システム
New Technology Information System

NETISとは [「新技術の検索」](#) [新技術の最新情報](#) [新技術概要説明情報](#)

「概要」「従来技術との比較」等のタブを
る情報がある場合は画面の上部にある

インターネット
NETIS検索画面

更新履歴

2014.04.17現在

ページ印刷用表 一括印刷用表

技術名称	○○○○○工法		事後評価済み技術	登録No.	
事前審査	事後評価	技術の位置付け(有用な新技術)	推奨技術	活用促進技術	設計比較対象技術
有	有	有			少実績優良技術
有用な新技術の適用期間、評価情報等					

上記※印の欄と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。申請情報の最終更新年月日:2012.05.22

[「比較する従来技術」](#) [審査証明](#) [単価・施工方法](#) [問合せ先/その他](#) [詳細説明資料](#)

利用の効果

比較する従来技術	軟弱地盤処理工(スラリー攪拌工単軸)		比較の概要
項目	活用の効果	比較の概要	
経済性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上(44.41%) <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 低下(%)	中圧噴射を利用するため小型の機械で対応できる。	
工程	<input checked="" type="checkbox"/> 短縮(20%) <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 増加(%)	機動性と施工時間が短いため、工期の短縮ができる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 低下	中圧噴射を利用するため、粘土の共同現象	

新技術活用効果調査表チェックリスト：活用例 その5

同じ項目で「優れていた点」「劣っていた点」の両方にチェックが付いていませんか？

実施報告書、活用効果調査表チェックリスト 【発注者】・【施工者】共通 (主任監督員)

チェックリスト

- ① 工事期間・新技術施工期間が変更されている場合は、正しい期間が記載されているか。
- ② 未記入箇所や未チェック箇所がないか。
(特に、実施報告書の黒太枠内の欄が記載されているか)
- ③ 調査項目の効果調査は、チェックがされているか。
(5段階 もしくは 当該技術に関連しない項目である の何れか)
- ④ 調査の視点は、適切な箇所にチェックがされているか。
(優れていた点と劣っていた点の同じ項目にチェックがないか)
- ⑤ 調査項目のコメントが記載されており、効果調査や調査の視点でチェックした内容と整合がとれているか。
- ⑥ 新技術の特徴が分かる写真が添付されているか。【施工者のみ】

※施工者にお願い

工区が1工区、2工区に分かれていて、同じ新技術を活用した場合に、1工区の活用効果調査表を2工区で丸写しする状況が見受けられます。現場条件(数量、施工量等)により評価はこととなりますので、丸写しは厳禁です。

チェック欄

会社名(所属)	〇〇建設 株式会社 (土木部)	連絡先(TEL)	(000) 000-0000
記入者氏名	〇〇 〇〇	NETIS番号	AA-000000-V
新技術名称	〇〇〇〇工法	比較する従来技術	軟弱地盤処理工(スラリー攪拌工)
工事名	〇〇地区改良工事		

調査項目	調査の視点
効果調査 <input checked="" type="checkbox"/> 当該技術に関連しない評価項目である 従来技術より劣る 四等 従来技術より優れる <input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 【コメント】 中圧噴射を利用した小型の機械で施工するため、機械経費が安価となる。また、ベースマシンがバックホウであるため、軟弱地盤であっても基礎足場などの仮設に支える手間が省力化でき、従来工法と比べ優れていた。施工量が多ければより経済的である。	優れていた点 <input checked="" type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 作業人員が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設費が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が短縮したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工量が想定数量より多かったため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理費の減少が見込まれるため 劣っていた点 <input checked="" type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 作業人員が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設費が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が延長したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工量が想定数量より少なかったため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理費の増加が見込まれるため !コメントは必須です(関連しない場合もその理由を記入)
工 <input checked="" type="checkbox"/> 当該技術に関連しない評価項目である 従来技術より劣る 四等 従来技術より優れる <input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 【コメント】 機械設備の搬入・搬出にかかる仮設が大幅に省かれたため、当初、8日間予定していた搬入・搬出の日程が4日間(2日間の短縮)になり、従来技術より工程は短縮できた。	優れていた点 <input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が短縮したため <input checked="" type="checkbox"/> 工程計画が組みやすかったため <input checked="" type="checkbox"/> 予定工程どおりに進捗したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工性が向上したため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため 劣っていた点 <input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が延長したため <input checked="" type="checkbox"/> 工程計画が組みづらかったため <input checked="" type="checkbox"/> 予定工程どおりに進捗しなかったため <input checked="" type="checkbox"/> 施工性が劣ったため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため !コメントは必須です(関連しない場合もその理由を記入)
品質・出来形 <input checked="" type="checkbox"/> 当該技術に関連しない評価項目である 従来技術より劣る 四等 従来技術より優れる <input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 【コメント】 機械が小型で取り回しが良かったため、杭間隔の誤差を小さくすることができ(最大で50mmの誤差)出来形、品質は従来技術より優れていた。	優れていた点 <input checked="" type="checkbox"/> 品質が向上したため <input checked="" type="checkbox"/> 出来形・精度が向上したため <input checked="" type="checkbox"/> 耐久性が向上する構造になったため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理項目が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理頻度が減少したため 劣っていた点 <input checked="" type="checkbox"/> 品質が低下したため <input checked="" type="checkbox"/> 出来形・精度が低下したため <input checked="" type="checkbox"/> 耐久性が劣る構造になったため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理項目が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理頻度が増加したため !コメントは必須です(関連しない場合もその理由を記入)

【不適切例】

「優れていた点」「劣っていた点」の同じ項目にチェックが付いている。

新技術活用効果調査表チェックリスト：活用例 その6

記載したコメントは、**効果調査**や**調査の視点**と**整合がとれていますか？**

実施報告書、活用効果調査表チェックリスト

【発注者】・【施工者】 共通
(主任監督員)

チェックリスト

- ① 工事期間・新技術施工期間が変更されている場合は、正しい期間が記載されているか。
- ② 未記入箇所や未チェック箇所がないか。
(特に、実施報告書の黒太枠内の欄が記載されているか)
- ③ 調査項目の効果調査は、チェックがされているか。
(5段階 もしくは 当該技術に関連しない項目である の何れか)
- ④ 調査の視点は、適切な箇所にチェックがされているか。
(優れていた点と劣っていた点の同じ項目にチェックがないか)
- ⑤ 調査項目のコメントが記載されており、効果調査や調査の視点でチェックした内容と整合がとれているか。
- ⑥ 新技術の特徴が分かる写真が添付されているか。【施工者のみ】

※施工者をお願い

工区が1工区、2工区に分かれていて、同じ新技術を活用した場合に、1工区の活用効果調査表を2工区で丸写しする場合が見受けられます。現場条件(数量、施工量等)により評価はことなりますので、丸写しは厳禁です。

チェック欄

会社名(所属)	〇〇建設 株式会社 (土木部)	連絡先(TEL)	(000) 000-0000
記入者氏名	〇〇 〇〇	NETIS番号	AA-000000-V
新技術名称	〇〇〇〇〇工法	軟弱地盤処理工 (スラリー攪拌工)	
比較する従来技術	〇〇地区改良工事		
工事名	〇〇地区改良工事		

調査項目	調査の視点
<input checked="" type="checkbox"/> 当該技術に関連しない評価項目である 従来技術より劣る 同等 従来技術より優れる 1 2 3 4 5 【コメント】 中圧噴射を利用した小型の機械で施工するため、機械経費が安価となる。また、ベースマシンがバックホウであるため、軟弱な地盤であっても重機足場などの仮設備に要する手間が省力化でき、従来工法と比べ優れていた。施工量が多ければより経済的であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 作業人員が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設費が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が短縮したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工量が想定数量より多かったため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理費の減少が見込まれるため
<input checked="" type="checkbox"/> 当該技術に関連しない評価項目である 従来技術より劣る 同等 従来技術より優れる 1 2 3 4 5 【コメント】 中圧噴射を利用した小型の機械で施工するため、機械経費が安価となる。また、ベースマシンがバックホウであるため、軟弱な地盤であっても重機足場などの仮設備に要する手間が省力化でき、従来工法と比べ優れていた。施工量が多ければより経済的であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 作業人員が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設費が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が延長したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工量が想定数量より少なかったため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理費の増加が見込まれるため
<input checked="" type="checkbox"/> 当該技術に関連しない評価項目である 従来技術より劣る 同等 従来技術より優れる 1 2 3 4 5 【コメント】 機械設備の搬入・搬出にかかる仮設が大幅に省略できたため、当初、8日間予定していた搬入・搬出の日程が6日間(2日間の短縮)になり、従来技術より工程は短縮できた。	<input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が短縮したため <input checked="" type="checkbox"/> 工程計画が組みやすかったため <input checked="" type="checkbox"/> 予定工程どおりに進捗したため <input checked="" type="checkbox"/> 施工性が向上したため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため <input checked="" type="checkbox"/> 施工日数が延長したため <input checked="" type="checkbox"/> 工程計画が組みづらかったため <input checked="" type="checkbox"/> 予定工程どおりに進捗しなかったため <input checked="" type="checkbox"/> 施工性が劣るため <input checked="" type="checkbox"/> 仮設が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため
<input checked="" type="checkbox"/> 当該技術に関連しない評価項目である 従来技術より劣る 同等 従来技術より優れる 1 2 3 4 5 【コメント】 機械が小型で取り回しが良いため、杭間隔の誤差を少なくすることができ(最大で50mmの誤差)出来形、品質は従来技術より優れていた。	<input checked="" type="checkbox"/> 品質が向上したため <input checked="" type="checkbox"/> 出来形・精度が向上したため <input checked="" type="checkbox"/> 耐久性が向上する構造になったため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理項目が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理頻度が減少したため <input checked="" type="checkbox"/> 品質が低下したため <input checked="" type="checkbox"/> 出来形・精度が低下したため <input checked="" type="checkbox"/> 耐久性が劣る構造になったため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理項目が増加したため <input checked="" type="checkbox"/> 品質・出来形の管理頻度が増加したため

【不適切例】

調査項目は劣る「2」にチェックしているのに、コメントは「優れている」と記載している。

新技術活用効果調査表チェックリスト：活用例 その7

新技術の特徴が分かる写真が添付されていますか？

実施報告書、活用効果調査表チェックリスト

【発注者】・【施工者】 共通
(主任監督員)

チェックリスト	チェック欄
① 工事期間・新技術施工期間が変更されている場合は、正しい期間が記載されているか。	
② 未記入箇所や未チェック箇所がないか。 (特に、実施報告書の黒太枠内の欄が記載されているか)	
③ 調査項目の効果調査は、チェックがされているか。 (5段階 もしくは 当該技術に関連しない項目である の何れか)	
④ 調査の視点は、適切な箇所にチェックがされているか。 (優れていた点と劣っていた点の同じ項目にチェックがないか)	
⑤ 調査項目のコメントが記載されており、効果調査や調査の視点でチェックした内容と整合がとれているか。	
⑥ 新技術の特徴が分かる写真が添付されているか。【施工者のみ】	

※施工者をお願い

工区が1工区、2工区に分かれていて、同じ新技術を活用した場合に、1工区の活用効果調査表を2工区で丸写しする状況が見受けられます。現場条件(数量、施工量等)により評価はことなりますので、丸写しは厳禁です。

【新技術の特徴が分かる写真の例】
施工状況(全景)、施工状況(近景)、完了、使用材料、使用機械、設置状況等

【総合的所見】 NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

・粘性土、砂質土共に適用可能である。
・ベースマシンがバックホウであることから小型で機動性が高く、狭路部の施工には適している。

・攪拌翼の径が大きくなると負荷が増加して、能力低下を招く。回転数と貫入・引き抜き速度で負荷を調整する必要がある。
・強度不足はなかったが、土質による強度のバラツキが生じた。

・長期的な耐久性を確認するためには、荷重ボーリング調査により改良体の劣化を追跡調査する必要がある。
・積長が長い場合は、ベースマシンの設置場所の養生及び積の真直度管理等に注意する必要がある。

【施工状況等の写真】

写真1 施工状況	写真2 攪拌翼	写真3 杭頭部確認状況
(施工状況)	(攪拌翼)	(杭頭部確認状況)

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか。

適切であった 適切でなかった
適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらいいか、従来技術名を記入してください。
本技術の適用打設長は0.9mであるのに対し、比較する従来技術「△△工法」の適用打設長は△△mであり、比較する従来技術は「□□工法」が望ましい。

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか。

今後も是非活用したい 活用を検討したい 場合によっては活用することもある 技術の改良を強く望む

理由： 施工規模等の条件が合えば、活用を検討したい。

当該技術について改良点・要望・その他ご意見がありましたら自由に記入してください。

改良点・要望

・作業効率の向上のため、攪拌翼の径による回転数と貫入・引き抜き速度の調整をする手間を少なくし、安定した施工が可能になれば良い。
・機種のラインナップが複数あり、様々な現場条件に対応できますが、土質条件は現場内で多様な場合もあるため、1つの規格で適用範囲に幅を持たせてほしい。

※添付する写真は3枚までです。